

平成 29 年 度

資料1-1

事業報告書

報告日

平成29年12月10日

担当者

田端 洋

事業名	国際理解講座 ～連合王国としてのイギリスの歴史と文化～				
事業計画カテゴリ	3. 社会的要請課題事業				
目標・目的	日本の近代化の手本となったイギリスは、単一国というよりもイングランド、スコットランド、ウェールズ及び北アイルランドの4ヶ国からなる連合王国で、その歴史は入り組んでおり4ヶ国は其々国意識が強く、イギリスの文化も4ヶ国の色合いを深く残すものである。こうした連合王国としてのイギリスの歴史と文化を知ることによって、同国への理解を深めてもらうことを目的とする。				
日時	平成29年12月9日（土）13:00～15:00				
場所・会場	香川公民館 集会室（大）				
講師・指導・協力者	山本 信太郎 氏（神奈川大学外国語学部准教授）				
報償額	20,000円（詳細裏面）	支払い方法	☒ 口座振込 ☐ 現金（資金前渡）		
対象者	高校生以上～一般の方まで	定員数	25名	実績人数	20名
材料費	なし	材料費用途	—（収支報告裏面）		
概要	1. イギリスの正式名は、「The United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland」であり、国名からしても複合性の国家であることがわかる 2. 16世紀初頭のブリテン諸島にはイングランド王国、スコットランド王国、ウェールズの3つの国があり、アイルランド島にはアイルランドがあった。これら4か国が16世紀頃から大きく動き出し、イングランド王国を中心に連合王国成立への道を歩み始めた。 3. 連合王国成立への道は、イングランド王国のウェールズとの合同、イングランド・スコットランドの合同、そしてアイルランドとの合同を経て、連合王国を形成することになった（後に、アイルランドは北部アルスタ地域が連合王国に残り、他はアイルランド共和国として独立）。 4. 16世紀初頭の言語分布をみても、英語を始め、スコット（英語の方言）、ゲール語、ウェールズ語等多岐に及び、ウェールズ語は今も公用語として使用されている。				
成果	1. イギリスが複合国家であり、構成する4カ国の自治・民族意識は強く、単にイギリスという一括りで考えられないことを学ぶことができた 2. イギリスのように複合国家における民族融和の難しさを知る機会となった。 3. ヨーロッパの国々は、イギリスと同様、基本的には多民族による複合国家であり、その中其々の歴史や文化が生まれているが、そのことが国家の分裂をも孕んでいることになっていることを学ぶ機会にもなった。				
自己評価	Ba				
事業に係る課題・反省点	1. 今回は1回講座としたが、できれば複数回講座にしてもう少し深掘りした講座にできればと思う。 2. 若年層も参加してくれる講座内容に見直すとともに、講座案内の発信の仕方も見直していきたい。				

そ の 他

成果欄 自己評価 評価基準

定員に対する評価

内容に対する評価

A : 定員以上の申し込み

a : 充実。次につながりそう

B : 定員の8割以上

b : 充実。次へのつながりはない

C : 定員の半数以上

c : やや不十分。

D : 定員の半数以下

d : 内容の見直しが必要

平成 29 年 度

資料1-2

事業報告書

報告日

平成29年12月20日

担当者

山田 重乃

事業名	日本の年越し ～しめ飾りづくり～				
事業計画カテゴリ	4. 地域交流事業				
目標・目的	伝承文化の1つであるしめ飾りづくりで、年越し行事を次世代に伝えていくのを目的とする。しめ飾りの技術を持った講師の育成も兼ねる。さらに、慣習や文化の経験豊かな方が、地域の人たちに伝えていくことにより、交流が深められ人と人の結びつきの場の提供。				
日時	①平成28年12月16日（土）10：00～12：00 ②17日（日）9：00～13：00				
場所・会場	香川公民館 保育室 テラス 講義室				
講師・指導・協力者	三澤 努さん（寒川町盆栽会相談役） 浜田 幸雄さん（木工細工講師） 真保 忠治さん（県立里山公園クラブ員） 三澤 錦子さん 小島 賢造さん 井上 幸雄さん（香川地区推進協） 南上 弘志さん				
報酬額	¥35,000 （詳細裏面）	支払い方法	☒ 口座振込 ☐ 現金（資金前渡）		
対象者	小学5年生以上	定員数	20名	実績人数	①13 名（任意参加） ②19名
材料費	¥500	材料費用途	ウラジロ・橙・紙垂・紙エビ 麻ひも・ビニール袋・サランラップ （収支報告裏面）		
概要	【16日（土）】 藁すき、藁たたき、垂紙、紙エビ作り等の前準備作業を任意の参加申込者で行う。 （午後より講師と公民館担当者で、ユズリ葉の採取と各工程サンプル作りと編み方の再確認。） 【17日（日）】 作業に入る前に、完成までのプロセスを現物を提示して説明し、さらに藁すき藁たたきの実演を行った。次に工程ごとに区切り参加者の進捗状況が揃うように講座を進め、全員完成することができた。その後、お飾りの付け方（ウラジロ、橙、ユズリハ、紙垂、エビ）を説明し、最後に全員で清掃を行い、お飾りセットを渡し解散とした。				
成果	・講師4名＋参加者からのピックアップ講師3名の計7名で指導に入ったため、丁寧な指導ができ参加者の満足度も高い。と、同時に後継者のスキルアップも行え、指導の力量を上げることができた。 ・前日作業のアンケートで「ワラ準備作業は大変だったが、話しながら楽しかった」と、あるように参加者同士の交流の場にもなった。 ・準備作業から参加してもらうことにより、よりいっそう日本の稲わら文化を学び、興味をもつ機会の提供ができた。				
自己評価	Aa				
事業に係る課題・反省点	・前日作業（藁すき、藁たたき、紙かざり）が効率的に行えていない。そのため、その後の講師の準備作業が遅くなってしまった。任意参加の前日準備は、フリースペースにせず始業終了時間を決め能率的に作業する工夫が必要である。 ・藁すき、たたきが完全に行えていなかった。次年度は参加者作業用を別分け、ワラの作業状態を確認し、できていない場合は手直しをする必要がある。 ・前日外作業の悪天候時対応を万全にしたい。（EX. 講義室非常口付近での室内作業・屋根付き駐輪場・保育室テラスでのタープ使用など） ・ウラジロ、橙が注文金額より高い金額で請求があった。なまものなどで致し方ないが、購入先をリサーチする必要がある。 ・余りの藁を希望者に渡さない事を講師と公民館の反省会で決めたが、再度、検討事項として講師と話し合いたい。 ・参加者の中からお手伝いできる方に声かけし、講師後継者の地盤固めをさらに続けていくことが課題である。 ・リピーターが増加傾向にあるので、対象者を限定（EX：初めての方、中高生等）することも検討したい。				

そ の 他

【講師謝礼】

三澤 努 さん¥5,000
 浜田 幸雄さん¥5,000
 真保 忠治さん¥5,000
 三澤 錦子さん¥5,000
 小島 賢造さん¥5,000
 井上 幸雄さん¥5,000
 南上 弘志さん¥5,000
 (合計 ¥35,000)

【材料費収支明細】

収入：材料費@500×20名=¥10,000
 支出：ウラジロ64枚 橙32個（有限会社 星のフラワー）¥7,603
 ウラジロ個別包装用サランラップ1箱・ビニール袋（株式会社マルエツ）
 ¥814
 紅白画用紙 麻ひも こより ビニール袋小（三澤さん）¥1,583
 残金：¥0

【県立里山公園稲わら譲渡日程】

平成29年5月講座開催の連絡と稲わら譲渡申請書を郵送。
 平成29年11月16日（木）公用車にて真保講師、職員、嘱託の3名で受け取り。

【道具借用】

藁すき：浜田講師 公民館職員
 たたき一式：三澤講師
 高枝ばさみ：三澤講師

成果欄 自己評価 評価基準

定員に対する評価

内容に対する評価

A：定員以上の申し込み

a：充実。次につながりそう

B：定員の8割以上

b：充実。次へのつながりはない

C：定員の半数以上

c：やや不十分。

D：定員の半数以下

d：内容の見直しが必要

平成 29 年 度

資料1-3

事業報告書

報告日

平成29年12月20日

担当者

鈴木 弘子

事業名	かめさんのおうち 12月				
事業計画カテゴリ	1. 家庭教育支援関連事業				
目標・目的	地域における子育て環境は、必ずしも十分だと言えない状況にある。こうした状況の中、地域の家庭教育学習の拠点として公民館の充実が期待されている。 子育ての悩みや不安を一人で抱え込まないよう身近で気軽に利用できる支援の場をつくり、さらには地域との接点の場所として公民館が活用されることを目的として開催した。				
日時	平成29年12月20日（水）10時～13時				
場所・会場	講義室・保育室				
講師・指導・協力者	香川公民館保育ボランティア 山本成美・佐藤三沙子・勝佳子・一戸由奈				
報 償 額	9,200円 (2,300円×4名)	支払い方法	☒ 口座振込 ☐ 現金(資金前渡)		
対 象 者	乳幼児を持つ親(保護者)とその子ども	定 員 数	40名	実績人数	子ども15名 保護者12名 (合計27名)
材 料 費		材料費用途	(収支報告裏面)		
概 要	0才3名・1才2名・2才6名・3才3名 保護者12名（天気：晴れ） 初めて5名・2～4回4名・5～9回4名・10回以上2名 幼稚園も冬休みに入り幼稚園児の参加人もあった。下の子を連れての利用で久しぶりですとのことだった。まだ、3か月なので、ようやく、外へ出られるようになったのだろう。 リピーターの保護者は話がはずみ、子どもたちも顔なじみになっているので、おもちゃの取り合いなどしながらもよく遊んでいた。 このところ、続けて利用している0歳の子どもたちも、盛んにハイハイするようになり成長を感じる。また、初めの頃に比べ、保護者の表情が明るくなってきたように感じた。 2歳男児が座布団につまずき転んでおでこに怪我をする。出血があったがすぐに止まる。冷やそうとしたが、泣いて抵抗するので救急絆創膏をはるだけの処置に終わる。保護者には今日は静かにしているようにし、様子を見ること、様子に変化があった場合は公民館にも連絡をもらえるように伝える。 寒さにも関わらず、たくさんの利用があり、にぎやかな「かめさんのおうち」だった。				
成 果	怪我をした友だちの様子をみて、表情が変わったり、泣いている友だちを不安げにみている、と当事者でない子どもも普段経験することがない状況なのではないかと思う。集団だからこその経験かと思う。				
自己評価	以前、かめさんのおうちを利用しているときに、知り合いになり、それから交流がつづいており、ラインのグループ名が「かめさん」という話を聞く。かめさんのおうちの目的のひとつはかなっているのではないかと思う話だった。				
事業に係る課題・反省点	12時前になると、お昼だからと帰り始め、12頃にはすっかり人数が減ってしまった。年齢の小さい子は長時間いることは無理なのかもしれないが、開催時間がもう少し長ければ、利用者の都合に合わせた利用ができるのかと感じた。				

Ca

そ の 他

成果欄 自己評価 評価基準

定員に対する評価

A : 定員以上の申し込み
B : 定員の8割以上
C : 定員の半数以上
D : 定員の半数以下

内容に対する評価

a : 充実。次につながりそう
b : 充実。次へのつながりはない
c : やや不十分。
d : 内容の見直しが必要

平成29年度
事業報告書

資料1-4

報告日	平成29年12月13日	担当者	森 俊彦
-----	-------------	-----	------

事業名	家族介護教室				
事業計画カテゴリ	3. 社会的要請課題事業				
目標・目的	超高齢社会を迎え、介護を必要とする人が大幅に増え、介護する家族の負担が増大している。介護は日々の積み重ねであり、介護者も介護される方もさらにこれから介護について学びたい方を含め、身体に負担をかけない持続可能な介護技術を学ぶ機会とする。				
日時	平成29年12月6日（水）10時～12時				
場所・会場	香川公民館 講義室				
講師・指導・協力者	株式会社ニッショウ 本店営業所所長 鈴木善俊、福祉用具専門相談員・福祉住環境コーディネーター加川健太、サポート 吉田、ヘルパー鈴木、同松本 計5名				
報酬額	10,000円 ＊高齢福祉介護課予算より	支払い方法	☐ 口座振込 ☒ 現金(資金前渡)		
対象者	現在介護をしている方、これから介護を学びたい方	定員数	15名	実績人数	11名
材料費	0円	材料費用途			
概要	福祉用具（ベッド、車いす、歩行器など）の使い方、介護される方にやさしい操作方法、体位の変更、体位変換時の圧の取り方、ベッドから車椅子への移乗方法などを実際に介護側だけでなく、介護される方の立場を経験した。 これから介護を学ぶ方にとってはベッドや車椅子での実践、特に体位変換時の圧の取り方（専門の用具又は代替えとしてビニール、台所で使用するポリエチレンの手袋）によって、介護される方が快適になることを実感していた。				
成果	本講座は市高齢福祉介護課との共催事業として開催した。 受講者は、介護中の方が少なく、介護していないけれど将来に向けて受講した方が多かった。そうした点では、介護の基本、介助等技術的なことについて介護の入口部分を受講できている。 また、介護術によって介護される方が心地よさ・快適さが異なることなど受講者が今後に生かせる講座となっている。				
自己評価	Ca				
事業に係る課題・反省点	当初申込みは13名だったが、当日キャンセルにより11名の受講となった。 福祉用具の操作については、現在介護していない方については、好評である一方、介護中の方は技術的（テクニック的）な事をもっと深く学びたいという求めるところの差異（初心者と介護中の方）があった。 講義終了後の反省会（講師、市）でもあったが、冒頭タイムスケジュールを示さなかったので、大まかなタイムスケジュールを示せば、段階を踏んで進行していくことを理解されやすかった。 また、講師についてもヘルパーの実践的な講義が説得力があり、今後、講師、市高齢福祉介護課、公民館の3者での進行方法、講義内容についてより一層の確認、協議が必要と感じた。（受講者のレベル差をいかに考慮するか。初心者を想定しての講座であることの周知等）				

そ の 他

今回、市高齢福祉介護課との共催事業にて実施した。
役割分担としては、主にチラシ作成、募集、会場確保・設営、アンケート作成・集計は香川公民館、講師選定（折衝）は高齢福祉介護課とした。

成果欄 自己評価 評価基準	
定員に対する評価	内容に対する評価
A：定員以上の申し込み	a：充実。次につながりそう
B：定員の8割以上	b：充実。次へのつながりはない
C：定員の半数以上	c：やや不十分。
D：定員の半数以下	d：内容の見直しが必要

平成 29 年 度

資料1-5

事業報告書

報告日

平成30年1月20日

担当者

正岡 透

事業名	香川シニアフリーサロン ～ 体 心 脳 元気を呼ぼう ～				
事業計画カテゴリ	3. 社会的要請課題事業				
目標・目的	長年この地域に住んでいるわりには地域とのかかわりが薄くあまり知り合いもないという人のために地域での居場所探しと、今回は心身ともに健康な状態で自立した生活を、老後も長く続ける適度な運動を取り入れた講座とします。				
日時	平成30年1月19日（金曜日）10時～12時				
場所・会場	香川公民館 講義室				
講師・指導・協力者	株式会社 リフシア 原田 和巳 さん（理学療法士）				
報 償 額	¥21,000（詳細裏面）	支払い方法	☒ 口座振込 ☐ 現金（資金前渡）		
対 象 者	一般	定 員 数	50人	実績人数	50人
材 料 費		材料費用途	（収支報告裏面）		
概 要	”健康呼ぼう”で 目指せ、光輝高齢！！ 明るく、楽しく、朗らかに、わたし流”健康”づくりを テーマに湘北地区社会福祉協議会 湘北地区民生委員児童委員協議会と共催して、講師から体、心、脳に刺激を与える手あそび や体全体を使った運動をおそわりました。				
成 果	* アンケート結果にも上がっている通り、明るくて手や足、体全体を動かしてよかった、とても 楽しくて先生のお話が解りやすく笑える事もありリラックスして出来ました等の声があり参加 された皆さん満足されたと思います。 * 今回は、湘北地区社会福祉協議会、湘北地区民生委員児童委員協議会と共催して行い参加者 募集、当日のレイアウト、受付など行っていただき感謝しています。 * 終了後、講師、社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会、代表の方々とミーティングを行い 機会があれば行いたいと一致しました。				
自己評価	Aa				
事業に係る 課題・反省点	* 事前の打ち合せを講師、社会福祉協議会代表の方々と行ったが当日の時間配分など細かなつめ が決まっていなく当日になってしまい時間配分等をしっかりと行っていくべきだと反省する。 * 共済事業は事前に行う日程を早めに決め打ち合せもしっかりとやっていく。				

そ の 他

成果欄 自己評価 評価基準

定員に対する評価

内容に対する評価

A : 定員以上の申し込み

a : 充実。次につながりそう

B : 定員の8割以上

b : 充実。次へのつながりはない

C : 定員の半数以上

c : やや不十分。

D : 定員の半数以下

d : 内容の見直しが必要

平成 29 年 度

資料1-6

事業報告書

報告日

平成30年1月26日

担当者

鈴木 弘子

事業名	かめさんのおうち 1月				
事業計画カテゴリ	1. 家庭教育支援関連事業				
目標・目的	地域における子育て環境は、必ずしも十分だと言えない状況にある。こうした状況の中、地域の家庭教育学習の拠点として公民館の充実が期待されている。 子育ての悩みや不安を一人で抱え込まないよう身近で気軽に利用できる支援の場をつくり、さらには地域との接点の場所として公民館が活用されることを目的として開催した。				
日時	平成30年1月24日（水）10時～13時				
場所・会場	講義室・保育室				
講師・指導・協力者	香川公民館保育ボランティア 川浪恵子・手代木淳子・田辺啓子				
報酬額	6,900円 (2,300円×3名)	支払い方法	☒ 口座振込 ☐ 現金(資金前渡)		
対象者	乳幼児を持つ親(保護者)とその子ども	定員数	40名	実績人数	子ども11名 保護者10名 (合計21名)
材料費		材料費用途	(収支報告裏面)		
概要	0才3名・1才1名・2才3名・3才4名 保護者11名(天気:晴れ) 初めて2名・2～4回4名・5～9回2名・10回以上3名 開始時間早々から参加があり、寒さにも関わらず全体的に出足が早く、活気を感じた。 小さなテントの中に二組の親子が入りこんで子どもたちははしゃぎ、母親は「早く出してー」と言いながらもうれしい悲鳴とともれる時間を過ごしていた。3才になった子どもたちは玩具の取り合いや貸し借りでかわいいもめごとも見られた。 滑って転び、軽くではあるが頭を打った子どもが3名いた。先日、床にワックスをかけたせいだろうか。次回から配慮しなければならない。 その他別紙日誌参照				
成果	長い時間ひとりである保護者にさりげなく話しかけてみる。「子どもの動きを見てるとおもしろいですねー」と言っていた。「かめさんのおうち」は母親が客観的にわが子をみることが出来るゆとりをもてる空間でもあるのかと感じた。				
自己評価	毎回お弁当を食べてから帰る親子が一組いるのだがきょうはさらに二組増えていた。「食べさせていくと、あとが楽よ」という話があったとかで、子育ての小さな知恵の伝えあいができていると思う。				
事業に係る課題・反省点	Ca				
	ワックスをかけたことで、滑ることまで認識がいかなかったことは反省する。今後ボランティアさん達にも伝え共通に認識しなくてはいけない。滑らないように靴下をぬがせてはいるが、冬になってきたら床の冷たさをかなり感じるので気持ちよく過ごせるためにも工夫したい。				

そ の 他

成果欄 自己評価 評価基準

定員に対する評価

A : 定員以上の申し込み
B : 定員の8割以上
C : 定員の半数以上
D : 定員の半数以下

内容に対する評価

a : 充実。次につながりそう
b : 充実。次へのつながりはない
c : やや不十分。
d : 内容の見直しが必要

平成 29 年 度

資料1-7

事業報告書

報告日

平成30年2月1日

担当者

山田 重乃

事業名	かがわ健康講座「お寺で坐禅」				
事業計画カテゴリ	3. 社会的要請課題事業				
目標・目的	疾病疾患予防と健康増進を目的とし、自分自身の健康と向き合うきっかけづくりになるように開催。今年度はこころの健康に焦点をあて、坐禅体験を行う。自分自身に対峙する時間をもつことにより自律神経を整え、ストレス軽減、解消を目的に開催。 さらに日常生活のなかでの座禅の呼吸法を取り入れ、不安やストレスがあっても克服できる術を学ぶ。				
日時	平成30年1月27日（土）14時～16時 現地集合解散				
場所・会場	龍前院				
講師・指導・協力者	曹洞宗龍前院 住職：赤間浩正さん 副住職：赤間泰然さん				
報償額	¥12,000 (詳細裏面)	支払い方法	☒ 口座振込 ☐ 現金(資金前渡)		
対象者	中学生以上	定員数	15名	実績人数	12名
材料費		材料費用途			
概要	現地集合（龍前院）の受付は、わかりにくい場所なので門前に立ち行い、駐輪場の場所等の案内を行った。受付をした参加者は順次、和室で待機し、そろったところで本堂に移動し、まず全員でご本尊へ合掌しご挨拶の指導があった。次に赤間浩正住職さんからのお話があり、泰然副住職さんによる講座開始となった。宗派によりやり方が違うことを説明し、身体ほぐしとストレッチを行い、曹洞宗の坐禅作法を身体を使って学んだ。休憩をはさみ、20分間壁に向かっての坐禅を実践。お香（お線香）の香と静かな本堂で厳粛な時間であった。 坐禅終了後、副住職さんから自律神経の講話があり、日常のなかで坐禅を取り入れてみる具体的なお話をしていたき、最後に和室に移動し茶話会の時間を設け、質問や感想を住職副住職を交え行い、解散とした。				
成果	・厳粛な雰囲気の中で作法を学び坐禅を行うことは、交感神経を静め、副交感神経を優位にし、心の健康に効果的であり、ストレス軽減、解消につながった。また、日常のなかで深い呼吸を意識的に行うことで、自律神経を整える術を学べた。				
自己評価	・細かく難しい作法は今回は省略し、基本的な指導と的確なポイントを教えてくださったので初心者にはわかりやすく、坐禅に対する興味を高められた。さらに2人のご住職が気軽に質問や疑問に答えてくださったので満足度も高いと考える。継続を望む声が多く聞かれたので検討したい。				
事業に係る課題・反省点	・スムーズな受付と誘導のため、公民館外での事業は主担当のほか、もう1名の職員の必要性を感じた。今回は夜間職員さんが参加者の中にいたので補助していただいたが、今後、事務所内で協力を仰ぎたい。 ・今年度は保健所統合によりスポーツ健康課がスポーツ推進課と健康推進課に体制が変わったため、共催はせず公民館単独で開催とした。今後、機会があれば偏りのない健康づくりへのアプローチが展開できるので、他課との共催が可能であれば実行したい。				

そ の 他

成果欄 自己評価 評価基準

定員に対する評価

内容に対する評価

A : 定員以上の申し込み

a : 充実。次につながりそう

B : 定員の8割以上

b : 充実。次へのつながりはない

C : 定員の半数以上

c : やや不十分。

D : 定員の半数以下

d : 内容の見直しが必要

平成 29 年 度

資料1-8

報 告 日

208/2/7

担 当 者

森 俊彦

事業名	「大人が楽しむお話し会」				
事業計画カテゴリ	6. 公民館ふれあい事業				
目標・目的	“おはなし”は、時代を越え先人から伝わってきた人類の宝物といえる。近年、子ども向けのおはなし会は、図書館やコミセン等で開催されることが定着してきた。しかし、大人の方が“おはなし”を楽しむ機会は、なかなかない。“おはなし”は、子どもから大人まで年代を超えて楽しめるものである。人間の生の声で語られる“おはなし”の魅力を多様な年代の方に知っていただき、「読み聞かせ」「すばなし（ストーリーテリング）」を、語り手とのふれあいを感じながら、想像力をふくらませ物語の世界に親しんでもらうことを目的とする。				
日時	平成30年2月4日（日）14時～15時				
場所・会場	香川公民館 集会室大				
講師・指導・協力者	ストーリーテリングサークル「おはなしのたまご」				
報 償 額	8, 0 0 0 円	支払い方法	☒ 講座振込 ☐ 現金(資金前渡)		
対 象 者	小学高学年以上	定 員 数	2 0 名	実績人数	1 6 名
材 料 費	0 円	材料費用途			
概 要	休憩をはさみ7人の語り手が各1話（5分程度）計7話の昔話のストーリーテリング（素話）を行った。休憩の時に、手遊びをいれ、少しリラックスした時間も取り入れた。語り手は立って行い、対面式でイスに腰掛けた聴衆を前に実演したものである。 なお、前週には、リハーサルを本番の順番どおりに司会進行を入れながら、念入りに実施した。				
成 果	・本事業は、28年度市民提案事業として採択したものを新たに29年度主催事業と位置づけたものである。聴衆（聞き手）が熱心に聞き、大人の方がじっくり、おはなしを聴く機会を得られたことは、貴重で有意義な時間を供与できたことは、事業目的に合致したと考える。反省会のなかでストーリーテリングサークル「おはなしのたまご」の方々も子どもたちへのおはなしは、香川公民館でも何度か行っているなか、大人を前に実演（発表）するのは、自分たちの技術向上に非常に役立っている。 ・小学校4年生以上を対象としているが5年生の参加（親子）であり、集中して聴いていた。小学校4年生（高学年）はの対象は妥当と考える。				
自己評価	Ba				
事業に係る課題・反省点	・事業内容の性格上、読み聞かせのボランティアの方が多かった。（←アンケート集計結果より）。申込みしていて4名欠席の方がいた一方、当日参加も4名いらした。 ・講座保育について、講師・指導の方（おはなしのたまご）用1名（3歳児）について保育ボランティアが対応した。当日講座申込みをした方が、保育もお願いしたい（4歳児）とあり、保育ボランティア（川浪さん）と協議の上受け入れた。快く保育ボランティア方は、受け入れてくれたとはいえ、負担をかけてしまった。				

そ の 他

- ・受付まわり、演台、本の紹介まわりについて、「おはなしのたまご」さんが自宅からの花（梅）を雰囲気よくさりげなく飾ってくれた。＊一部公民館の草花使用。
- ←受講者の方から、こういったさりげなく配慮された受付は初めてとの言葉をかけていただいた。
- ・反省会のなかで公民館として現在、主催事業として位置づけており、「おはなしのたまご」さんからも引き続きの要望が強かった。
- ・市外の方2名いたが、受け入れた。

定員に対する評価

内容に対する評価

A：定員以上の申し込み

a：充実。次につながりそう

B：定員の8割以上

b：充実。次へのつながりはない

C：定員の半数以上

c：やや不十分。

D：定員の半数以下

d：内容の見直しが必要

平成 2 9 年 度

資料1-9

事業報告書

報告日

平成30年1月11日

担当者

森 俊彦

事業名	冬休み学習室開放																			
事業計画カテゴリ	3. 社会的要請課題事業																			
目標・目的	1 空き部屋の利用率を上げる。主に集会室小、和室 2 青少年に学習室の場を提供する。市内北部に個人で学習する場がないため。 (南部・中央部には図書館や青少年会館がある)																			
日時	冬休み期間 (12月23日～1月8日) 8日間 午前の部: 9時～12時 午後の部: 13時～17時																			
場所・会場	香川公民館 集会室小、和室																			
講師・指導・協力者																				
報償額	なし (詳細裏面)	支払い方法	☐ 講座振込 ☐ 現金(資金前渡)																	
対象者	小学生～20歳	定員数	各日10名 <9日18コマ>	実績人数	0名															
材料費		材料費用途	(収支報告裏面)																	
概要	・空き部屋の利用率を上げる。 ・青少年に学習室の場を提供する。市内北部に個人で学習する場がないため。 ・冬休みの宿題、受験勉強等をする場を提供する。																			
成果	・利用実績がなかった。 ・ロビーで勉強している中学生(女子2名)に学習室の利用を誘導したが、ここ(ロビー)であるとのことだった。																			
自己評価	Dd																			
事業に係る課題・反省点	・冬休み学習室開放は、全般的に利用が低調の中であって、利用がなかった。PRの方法を含め、継続性について、30年度以降検討の必要がある。 ＊「夏休み学習室開放」では、28年度新たな試みとして、近隣小中(香川小、鶴が台小、鶴が台中)の対象全児童・生徒へ(小学3年生～6年生、中学生全学年)チラシを学校を通じ配布(約1,400枚)した。ただし、実績への反映(効果)が芳しくなかった。 <参考>学習室開放実績 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>夏休み学習室開放</th> <th>冬休み学習室開放</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>26年度</td> <td>7日12名</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>27年度</td> <td>17日35名</td> <td>2日7名</td> </tr> <tr> <td>28年度</td> <td>17日44名</td> <td>2日4名</td> </tr> <tr> <td>29年度</td> <td>11日44名</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>						夏休み学習室開放	冬休み学習室開放	26年度	7日12名	0	27年度	17日35名	2日7名	28年度	17日44名	2日4名	29年度	11日44名	0
	夏休み学習室開放	冬休み学習室開放																		
26年度	7日12名	0																		
27年度	17日35名	2日7名																		
28年度	17日44名	2日4名																		
29年度	11日44名	0																		

そ の 他

成果欄 自己評価 評価基準

定員に対する評価

内容に対する評価

A : 定員以上の申し込み

a : 充実。次につながりそう

B : 定員の8割以上

b : 充実。次へのつながりはない

C : 定員の半数以上

c : やや不十分。

D : 定員の半数以下

d : 内容の見直しが必要

平成 29 年 度

資料1-10

事業報告書

報告日

平成30年2月16日

担当者

山田 重乃

事業名	手づくり布ぞうり(講師養成講座 ～技術向上フォローアップ～)				
事業計画カテゴリ	6. 公民館ふれあい事業				
目標・目的	26年度事業「布ぞうり講師養成講座」参加者のステップアップと、自分たちの学びを地域の貢献する意識を高める目的で開催。また、昔ながらの布ぞうりを作りて日本文化継承と古布のリサイクルを学ぶ。				
日時	①平成30年1月25日(木)10時～13時 ②平成30年2月9日(金)9時30分～12時30分				
場所・会場	香川公民館 ①保育室 ②和室				
講師養成者兼講師	片野 順子さん 竹田 由美子さん 富田 久美子さん 松尾 智恵子さん 菅沼 松江さん 吉田 紀子さん				
報酬額	なし (詳細裏面)	支払い方法	☐ 口座振込 ☐ 現金(資金前渡)		
対象者	一般	定員数	10名	実績人数	10名
材料費	300円	材料費用途	芯 鼻緒 (収支報告裏面)		
概要	はじめてのプレ講師のみ講座を開催した。募集人数を10名にしぼり4つのグループに分け、進行説明役講師と各班付き講師に分かれて講座を行った。 布さき→芯かけ→鼻巻→編み→鼻緒づくり→横鼻緒付け→かかと処理→前鼻緒たての順に、行程ごとに区切って作業を進めてき、全員1足完成することができた。				
成果	・講師養成講座から3年越しで講師として講座を開催することができた。布ぞうりの技術も上がり、どうすればわかりやすく編むことができるか講師どうして意見を交わし準備と練習をし、参加者の立場に立った講座を心がけていた。今後さらなるブラッシュアップが期待できる。 ・参加者の方から老人福祉施設にて利用者さん向けぞうり講座依頼があった。プレ講師の活動の場の拡大につながった。 ・日本古来の伝統を次世代への引き継ぎの担い手の育成としての成果があった。また、自身の学びを地域につなげていく意識づけができたと考える。				
自己評価	Aa ・一般向け布ぞうり講座に講師人数を増やすことにより、よりきめ細かい指導と、以前のような講師がぞうりを完成させてしまうことを防ぐことにより、講座のレベル向上と参加者の満足度を上げることにより期待ができる。				
事業に係る課題・反省点	・同一進捗では時間がかかり効率が悪いと意見が出たため、講座冒頭で完成までの工程を詳しく説明し、その後、個別に進めていく指導方法を、次回より新しい試みとして検討する。 ・定期的に講師のためのフォローアップ練習会を開き、さらなる技術の向上と講師のチームワークを上げていく必要がある。 ・講座参加者の中から、協力者から講師につなげていくことが、地域交流や世代間交流、講座向上に効果があるので、新しい人材を増やし活性化することも必要である。				

そ の 他

成果欄 自己評価 評価基準

定員に対する評価

内容に対する評価

A : 定員以上の申し込み
B : 定員の8割以上
C : 定員の半数以上
D : 定員の半数以下

a : 充実。次につながりそう
b : 充実。次へのつながりはない
c : やや不十分。
d : 内容の見直しが必要

平成 29 年 度

資料1-11

事業報告書

報告日

平成30年2月18日

担当者

山田 重乃

事業名	かがわ乳幼児健康相談				
事業計画カテゴリ	1. 家庭教育支援関連事業				
目標・目的	乳幼児の健やかな心身の健康と発達を支援を目的とし、身体測定、栄養相談、育児相談を個別に行う。 また、母親への育児における助言と茅ヶ崎市の子育て支援事業の周知を行う。				
日時	原則偶数月の第2木曜日13時～15時 平成28年4月20日（木）6月8日（木）8月10日（木）10月12日（木）12月14日（木）平成29年2月8日（木） 全6回				
場所・会場	香川公民館 講義室 保育室(10月12日選挙のため)				
講師・指導・協力者	茅ヶ崎市保健所健康増進課 保健師 栄養士				
報酬額	(詳細裏面)	支払い方法	☐ 口座振込 ☐ 現金(資金前渡)		
対象者	乳幼児とその保護者	定員数	フリースペース	実績人数	128名 (詳細下記)
材料費		材料費用途	(収支報告裏面)		
概要	こども育成相談課と共催。茅ヶ崎市保健師、栄養士が個別に相談業務、身体測定を行い、乳幼児の健康をサポートする。また母親の育児支援を行う。				
成果	乳幼児の心身の健やかな健康と発達のために効果があった。また母親への助言等で育児支援に成果があったと考える。 平成29年 4月20日（木）乳幼児9名 保護者8名 6月8日（木）乳幼児10名 保護者11名 8月10日（木）乳幼児9名 保護者11名 10月12日（木）乳幼児7名 保護者7名(選挙のため保育室にて実施) 12月14日（木）乳幼児10名 保護者10名 平成30年 2月8日（木）乳幼児21名 保護者15名				
自己評価	Ba (合計) 乳幼児66名 + 保護者62名 =128名				
事業に係る課題・反省点	・29年10月12日～期日前選挙準備のため講義室が使用できないため保育室にて実施。思いのほか使い勝手が良く、「子どもが安心して入室できる環境にある」との健康増進課からの要望で、次年度より保育室で実施する。 ・市や地域団体等の子育て支援の催し物チラシをピックアップし、会場内に置くことを実行していきたい。 ・次年度より（平成30年度）時間の変更あり。受付時間を設定し13時30分～14時30分（1時間）とし、16時30分まで開場。（従来：13時30分～15時の時間内で受付と相談）				

そ の 他

成果欄 自己評価 評価基準

定員に対する評価

内容に対する評価

A : 定員以上の申し込み

a : 充実。次につながりそう

B : 定員の8割以上

b : 充実。次へのつながりはない

C : 定員の半数以上

c : やや不十分。

D : 定員の半数以下

d : 内容の見直しが必要

平成 29 年度

資料1-12

事業報告書

報告日

平成30年2月17日

担当者

正岡 透

事業名	おやこ料理教室～春色！ おひなまつり楽しい料理				
事業計画カテゴリ	2. 子ども事業				
目標・目的	おひな祭りが近い二月に、彩りも春色のパーティー料理の料理法を学ぶ。今回の料理教室では日ごろあまり行われなくなっている家事の手伝いや、親と子が一緒に作る、一緒に食べるという体験作業を行う機会とし、併せて料理を作りながら栄養についても考える。				
日時	平成30年2月17日（土）10時～13時30分				
場所・会場	香川公民館 調理実習室 及び 集会室（大）				
講師・指導・協力者	「母親クラブわかば会」のみなさん 代表 岡崎文江さん				
報償額	15,000円 (詳細裏面)	支払い方法	☒ 口座振込 ☐ 現金(資金前渡)		
対象者	小学生の子どもとその保護者	定員数	8組	実績人数	5組 11名
材料費	1人500円	材料費用途	(収支報告裏面)		
概要	最初にわかば会の岡崎さんより本日の料理、ちらし寿司、コロコロサラダ、紅白かんてんよせの作り方をレシピに基づき一部は食材を使用しながら説明。 説明が終わった後、各テーブルに分かれ、わかば会の方が付き扱い紅白カンテンから作り始めコロコロサラダ、ちらし寿司に入れる具をゆでたりいり卵を作りながらご飯が炊きあがるのを待ちごはんが炊き上がったら飯台にすし酢を混ぜて寿司飯を作りその中に、ゆでて刻んでおいた野菜や鮭フレークなどを混ぜちらし寿司を作り器に分けた後いりよく飾り、出来上がった料理を大の部屋で全員でいただきました。				
成果	参加者が5組（11人）と定員に対して7割強にとどまったが各グループとも親の方々が子どもに食材の切り方を教えながら料理をしており親子の大切な時間となったと思われる。 家庭ではふだんなかなか親子で料理が出来なく、公民館の講座で親子で出来る講座があり楽しんで参加しましたの反響もありました。 参加者には楽しんでもらえ、満足してもらえたようであり今後も取り組む事業である。				
自己評価	Ba				
事業に係る課題・反省点	今回は低学年の参加が多く下準備を心配したが混乱は無くスムーズに事業が実施できた。 おひなまつり料理と限定しないで日程を再考の必要もあるかと感じる。 また、あまりに参加人数を広げると、食器等にも限界があるので、その点も留意し参加受付をする必要があると感じた。				

そ の 他

収入
材料費 参加者×11名＝5,500円

支出
食材費 調味料、野菜等 5,603円

差額▲103円は協力団体負担

成果欄 自己評価 評価基準

定員に対する評価

内容に対する評価

A：定員以上の申し込み

a：充実。次につながりそう

B：定員の8割以上

b：充実。次へのつながりはない

C：定員の半数以上

c：やや不十分。

D：定員の半数以下

d：内容の見直しが必要

平成 2 9 年 度

資料1-13

事業報告書

報告日

平成30年3月5日

担当者

森 俊彦

事業名	普通救命講習会(後期)				
事業計画カテゴリ	3. 社会的要請課題事業				
目標・目的	救急車が到着するまでの間、大切な命を救うために応急手当の知識や技術を身につけ、万が一の時に備える。				
日時	平成30年3月5日(日) 9時～12時				
場所・会場	香川公民館 講義室				
講師・指導・協力者	茅ヶ崎市消防署消防指導課職員1名、茅ヶ崎市応急手当普及協会ボランティア2名 計3名 その他、応急手当普及協会ボランティア1名が指導方法を見学				
報 償 額	(詳細裏面)	支払い方法	☐ 講座振込 ☐ 現金(資金前渡)		
対 象 者	一般(中学生以上)	定 員 数	25名	実績人数	9名
材 料 費	なし	材料費用途	なし (収支報告裏面)		
概 要	2班に分かれ(男女混合。1班は男性2名、女性3名、もう1班は男性2名、女性2名)、前半は心肺蘇生法、体位回復、休憩を挟み、後半はAEDの使用法、異物除去法、止血法の実技講習を行った。				
成 果	1 受講者の動機付けも、様々であるが、今回は特に勤務先でのすすめが多かったなか、丁寧な受講ができた。 2 一般的な事故、病気はもとより、近年、自然災害が頻繁に起こっている。こうしたなか、公民館において講習会を開催することは必要である。 3 受講後さらに習得したいと、上級救命講習会(1日8時間)を希望される方がおり、ステップアップの機会となった。				
自己評価	Dc				
事業に係る課題・反省点	・受講者が少ない傾向は続き、業務上必要な方のみならず、どのように周知していくかが改めての課題である。 ただ、5館共通の課題でもあり、事業所での個別で講習会を開催している会社もあり、消防指導課でも認識している。				

そ の 他

・班分けは消防指導課にお願いしたが、男女混合（ミックス）の方が和やかに実施できると話されていた。結果、和やかに活発に講習ができていた。

・＜参考＞消防署で実施される「上級救命講習会」は人気があり、定員にすぐ達するとのこと。

成果欄 自己評価 評価基準

定員に対する評価

内容に対する評価

A：定員以上の申し込み

a：充実。次につながりそう

B：定員の8割以上

b：充実。次へのつながりはない

C：定員の半数以上

c：やや不十分。

D：定員の半数以下

d：内容の見直しが必要

平成 2 9 年 度

資料1-14

事業報告書

報告日

平成30年3月6日

担当者

志村光一

事業名	南極を体験してみよう				
事業計画カテゴリ	2. 子ども事業				
目標・目的	茅ヶ崎市内在住の南極越冬隊を経験した講師の話を聞き、子どもたちに普段の生活ではなじみの薄い南極について ①南極についての知識を得る。 ②南極の仕事にもさまざまな業種業態の人がかかわっていることを知る。 ことで社会に様々な仕事があることを知るきっかけとする。				
日時	平成30年3月3日（土） 10時～12時				
場所・会場	香川公民館 集会室大				
講師・指導・協力者	稲森 康治 氏				
報 償 額	¥10,000 (詳細裏面)	支払い方法	☒ 口座振込 ☐ 現金(資金前渡)		
対 象 者	年中～小学生（保護者同伴可）	定 員 数	20名	実績人数	27名
材 料 費	—	材料費用途	— (収支報告裏面)		
概 要	南極越冬隊の仕事についての講義、南極の地理・生物等についての講義、南極で着る服や石、氷の展示 ※親子でわくわくおしごと体験クラブとして実施				
成 果	2週間前時点で参加者が集まっていない状態であったため、参加者を小学生のみから年中～小学生に拡大した。直近にテレビ番組で南極について放映していたこともあったのか、開催前には参加者はほぼ定員に達した。ニーズに沿ったテーマであったといえる。また講座修了後も熱心に質問する子どもも複数いた。実際の実験もあったため、子どもも興味をもっていた。				
自己評価					
事業に係る課題・反省点	2時間行ったが、実験を交えて行ったが、講義の時間が長かったため、飽きてしまう子が複数いた。よりワークショップ形式、体験重視の方が良い。				

そ の 他	実績　子ども２０名、保護者７名	
	成果欄　自己評価　評価基準	
	定員に対する評価	内容に対する評価
	A：定員以上の申し込み B：定員の８割以上 C：定員の半数以上 D：定員の半数以下	a：充実。次につながりそう b：充実。次へのつながりはない c：やや不十分。 d：内容の見直しが必要

平成 29 年 度

資料1-15

事業報告書

報告日

平成30年3月6日

担当者

正岡 透

事業名	あそびの広場				
事業計画カテゴリ	2. 子ども事業				
目標・目的	子どもが安心して楽しく利用できる公民館を目指して、「造形活動」「身体を使った遊び」「読み聞かせ」を季節の行事とからめて展開。つくることの喜びを体験し、創造的な関心や意欲を育てる、昔ながらの行事や遊びを織り込み伝統継承も行う。子どもの豊かな人間性健やかな成長の支援を目的とする。				
日時	毎月第一土曜日（8月休み）5月及び1月は第2土曜日）				
場所・会場	香川公民館 講義室 保育室 雑木林 テラス 広場				
講師・指導・協力者	ボランティアサークル「この指とまれ」ほか 代表：星野 貴美子さん				
報酬額	¥50,000 (詳細裏面)	支払い方法	☒ 口座振込 ☐ 現金(資金前渡)		
対象者	幼児・児童	定員数	フリースペース 工作月は10～30人	実績人数	193人 内子ども 127人
材料費		材料費用途			
概要	4月1日（土）作ってあそぼう「牛乳パック工作」とおはなし会 5月13日（土）広場であそぼう「ダンボールあそび」 6月3日（土）作ってあそぼう「色水あそび」とおはなし会 7月1日（土）作ってあそぼう「七夕かざり」とおはなし会 9月2日（土）広場であそぼう「しゃぼん玉あそび」 10月7日（土）作ってあそぼう「木のおもちや」とおはなし会 11月4日（土）作って食べようぎょうざピザ 12月2日（土）人形劇フェスティバルとおはなし会（別途報告済み） 1月13日（土）広場であそぼうむかしあそび 2月3日（土）作ってあそぼう「おにのめん」とおはなし会 3月3日（土）作ってあそぼう「おひなさま」とおはなし会				
成果	①身体を使ったあそび、造形活動、読み聞かせを日本の季節行事とからめながら行い子ども達と楽しいあそびが出来た。 ②ダンボールあそび、シャボン玉あそび、大きい竹に飾る七夕かざりづくりなど家庭の中ではなかなか出来ないあそびも出来、地域に身近な公民館の役割が提供できた。				
自己評価	Ca				
事業に係る課題・反省点	①内容が前年の繰り返しになっているが、その中でも次年度は子どもたちに喜ばれる新しいあそびを提案してゆき更に身近な公民館をめざす。 ②協力サークルこの指とまれの人数増員のためにサークルと一緒に、声掛けを行いあそびの広場の活性化につなげてゆきたい。 ③小学校、幼稚園、保育園行事とあそびの広場が重なると参加者が少なくなってしまうスタッフと数人だけという時があり事前に解れば開催日を変更もあってもよいと感じる。				

そ の 他

成果欄 自己評価 評価基準

定員に対する評価

内容に対する評価

A : 定員以上の申し込み

a : 充実。次につながりそう

B : 定員の8割以上

b : 充実。次へのつながりはない

C : 定員の半数以上

c : やや不十分。

平成 2 9 年 度

資料1-16

事業報告書

報告日

平成30年3月9日

担当者

志村光一

事業名	プログラミングの広場 ビスケット				
事業計画カテゴリ	2. 子ども事業				
目標・目的	①プログラミング教育は、2020年より義務教育課程において必修化が予定されている。プログラミングを体験できる場をつくり、コンピューターとは何かを体感できるようにする。②プログラミングは親が習わせたいものの上位にも入っており、プログラミング教育という旬なテーマを選定すること、また月1回の継続開催とすることで、参加する子どもたちが公民館へ継続して来館するきっかけをつくる。				
日時	原則毎月第2土曜日10時～12時（12月9日 1月13日 2月10日 3月10日）				
場所・会場	香川公民館ロビー				
講師・指導・協力者	協力：合同会社デジタルポケット				
報償額	¥0 (詳細裏面)	支払い方法	☐ 口座振込 ☐ 現金(資金前渡)		
対象者	小学生（保護者同伴可）	定員数	20名	実績人数	12月 0名 1月 2名 2月 3名 3月 3名 (同伴の保護者含)
材料費	500円 (タブレットの持参の人は無料)	材料費用途	タブレットレンタル代 (収支報告裏面)		
概要	小学生がビスケットを使って自由に遊べる場をつくる 大人は基本的に見守り、または子どもたちに課題を出す程度で、子どもたちが自主的にビスケットで遊んで行ける環境をつくる。手法としてはOST（オープンスペーステクノロジー）を变形して実施し、子どもの主体性をより促進するデザインとした。				
成果	大人は基本的に見守りという方針だったが、親と子供と一緒に楽しんでいる場面が見られた。受付等を手伝ってくださる保護者の方も2名程あつまった。やり方を知っている子が他の子どもに教え合ったり、お互いに作ったゲームで遊びあったりする場面も見られ、協働性の学びもあった。				
自己評価					
事業に係る課題・反省点	2時間は子どもにとっては長いので、時間設定は変更の必要がある。また自由といっても何をやればいいのかわからない子もいるので、一定のテーマや課題を詳細に設定した方がよい。				

Ca

そ の 他

※タブレットレンタル料
1 2月 0円
1月 500円
2月 1000円
3月 1000円
合同会社デジタルポケットへ

成果欄 自己評価 評価基準

定員に対する評価

内容に対する評価

A : 定員以上の申し込み

a : 充実。次につながりそう

B : 定員の8割以上

b : 充実。次へのつながりはない

C : 定員の半数以上

c : やや不十分。

D : 定員の半数以下

d : 内容の見直しが必要

平成 2 9 年 度

資料1-17

事業報告書

報告日

平成20年3月11日

担当者

森 俊彦

事業名	お料理基本の「基」～だしから学ぶ				
事業計画カテゴリ	6. 公民館ふれあい事業				
目標・目的	昆布や鰹節、煮干しなど天然の素材から本格的にとる「だし」を紹介し、だしをとる意味とその大切さ、だしの作り方から健康に良いだけでなく、日本人がここを込めて作る美味しい料理の原点をで人を幸せにするパワーを探っていく。				
日時	平成30年3月11日（日）10時～12時				
場所・会場	香川公民館 調理実習室 保育室				
講師・指導・協力者	食育料理研究家、食育指導士、まなびの市民講師 加藤イセ子さん その他サポートとして、水島誠二さん、仲宗根さん、須藤さん				
報 償 額	0 円 ＊まなびの市民講師のため、なし。	支払い方法	☐ 講座振込 ☐ 現金(資金前渡)		
対 象 者	一般（小学4年生以上）	定 員 数	15名	実績人数	7名
材 料 費	800円/一人	材料費用途	昆布、かつお節、米、水（ペットボトル）、ほうれん草、ジャガイモ		
概 要	●だしの作り方を基礎から学ぶ。 ①鍋に常温の水を入れ、昆布を約20分浸けおく ②鍋に強火にかける。鍋の底で小さな気泡がふつふつ立ってきたら昆布を取り出す。 ＊沸騰させない。 ③湯温40度c～45度cを保ったまま厚削り節100gを一度に入れ、強火にかける。 などしっかり丁寧な過程を経て、だしを作る。具材（今回はワカメ、ほうれん草、ジャガイモ）を入れたお椀に温めて作ったダシ汁を注ぐ。ここでもお椀に椀数に応じ注ぐ。味噌も椀ごとに入れる。 ●おにぎりの作り方（にぎり方） にぎる回数は3回。自分のために作ったもの一つ。向かい側の方に作ったおにぎ一つ。食べ比べる。				
成 果	・昆布や鰹節など天然の素材から本格的にとる「だし」紹介し、だしを意味とその大切なだしの作り方から味噌汁を作り、いかに美味しく作れるかを受講者が感じる事が出来た。 ・素材の長短の長さの違いにより（今回はほうれん草）受講者がその甘み、苦みの差異を実感する。 ・塩むすびとみそ汁といういたってシンプルなメニューのなか相手（あなた）のためにということで、食感が異なる。				
自己評価	D b				
事業に係る課題・反省点	・参加者数が少なかった、周知不足が十分出来なかった。 ・配布資料については、講師との「事前打合せ」、「当日」ともなしのことだった。ただし、講座を進めていく過程でやはりダシのレシピ（作り方）について受講者からの要望を受け、早速講師のホームページから印刷して配布した。 ・講座保育について、保育申込みの方が15分ほど遅刻し、保育ボランティアに迷惑をかけ（保育は4歳）。さらに、保育は、乳幼児が対象だが、一緒に連れてきた姉（小学1年生）についても保育ボランティアの好意により対応していただいた。				

そ の 他

定員に対する評価

内容に対する評価

A：定員以上の申し込み

a：充実。次につながりそう

B：定員の8割以上

b：充実。次へのつながりはない

C：定員の半数以上

c：やや不十分。

D：定員の半数以下

d：内容の見直しが必要

平成 29 年 度

資料1-18

事業報告書

報告日

平成30年3月11日

担当者

田端 洋

事業名	卓球開放				
事業計画カテゴリ	4. 地域交流事業				
目標・目的	小学生以上を対象に卓球のために講義室を開放し、地域の仲間づくり、大人と子供の交流を進めるとともに、健康増進と公民館の活用を図り公民館への理解を深めてもらうことを目的とする。				
日時	毎月第2金曜日。平成29年4/14、5/12、6/9、7/14、8/11、9/8、11/10、12/8、平成30年1/12、2/9、3/9の15：00～17：00まで。平成29年10/13は衆議院選挙準備のため中止。				
場所・会場	香川公民館講義室				
講師・指導・協力者	なし				
報償額	なし (詳細裏面)	支払い方法	☐ 口座振込 ☐ 現金(資金前渡)		
対象者	小学生から一般まで	定員数	なし	実績人数	延べ146名
材料費	なし	材料費用途	— (収支報告裏面)		
概要	内容：卓球台3台を設置し、ラケット・ボールを貸出し、自由に卓球を楽しんでもらう。参加にあたっては、氏名・住所（または学校名・学年）を記入してもらい、参加状況を確認することとしている。 開催日毎の参加者数：4/14（14名）、5/12（9名）、6/9（16名）、7/14（14名）、8/11（3名） 9/8（23名）、10/13（中止）、11/10（7名）、12/8（13名）、1/12（17名） 2/9（10名）、3/9（20名）で、年度を通じて延べ146名（月平均13名強）の参加であった。				
成果	1. 今年度は昨年度に比して参加者が増え、年度を通じて延べ146名（月平均13名強）であった。参加者数は昨年度より16名少なく、月平均でみると2名弱少なかった。昨年は9月のリオオリンピックの影響で子供の参加が多かった面がある。 2. 卓球開放では、子供たちが各々思い思いに楽しそうに卓球に興じており、子供の居場所としてのその役割を果たしている。 3. 親子で参加する姿も見られ、コミュニケーションの良い機会にもなっている。				
自己評価	Ca				
事業に係る課題・反省点	1. 公民館に来ている子供たちへの声掛けは継続して行うこととしたい。 2. 一旦卓球を始めると、楽しそうに興じている子供たちも多いことから、卓球開放の場は子供たちの良い交流の機会ともなっており、今後も継続していきたいと考える。				

そ の 他

成果欄 自己評価 評価基準

定員に対する評価

内容に対する評価

A : 定員以上の申し込み

a : 充実。次につながりそう

B : 定員の8割以上

b : 充実。次へのつながりはない

C : 定員の半数以上

c : やや不十分。

D : 定員の半数以下

d : 内容の見直しが必要

平成 2 9 年 度

資料1-19

事業報告書

報告日

平成30年3月11日

担当者

志村光一

事業名	子どもまつり				
事業計画カテゴリ	5. 学習成果の還元事業				
目標・目的	①子ども対象の香川公民館主催事業の発表の場をつくる。 ②次年度の子ども対象の講座、イベントの集客導線をつくる。				
日時	平成30年3月3日（土） 10時～16時				
場所・会場	香川公民館				
講師・指導・協力者	※1				
報償額	※2 (詳細裏面)	支払い方法	☒ 口座振込 ☐ 現金(資金前渡)		
対象者	小学生、または親子	定員数	※3	実績人数	※4
材料費	—	材料費用途	— (収支報告裏面)		
概要	①子どもたちによる主催事業の発表（レッツトライボランティア、紙芝居でボランティア） ②あそびの広場 ③かみしばい広場とおはなし会 ④南極を体験してみよう（別起案） ⑤親子ピラティス ⑥新聞紙で鉛筆をつくろう ⑦ボードゲームで遊ぼう （追加）⑧将棋の広場 （追加）⑨小中学生美術作品などの展示				
成果	前年度より参加者は増加した。今回は台風で中止になった香川公民館まつりの代わりとしての子どもまつりでもあり、公民館まつりに出店予定だった将棋愛好会や食育改善推進団体すずらんも一部参加していただき、より地域への還元という要素が高まった。				
自己評価					
	Ba				
事業に係る課題・反省点	集客が課題である。展示や発表だけでは、集客が難しいため、人気のある講座を複数もってくる必要がある。また発表などは、講座の開催から子どもまつりまで期間が空いてしまっているものも多く、講座開催時から子どもまつりへの参加を意識させる必要がある。				

そ の 他	※ 1 講師・協力者 ①子どもたちによる主催事業の発表（レッツトライボランティア、紙芝居でボランティア） ⇒紙芝居サークル虹 ②あそびの広場 ⇒この指とまれ ③かみしばい広場とおはなし会 ⇒紙芝居サークル虹、おはなしのたまご ④南極を体験してみよう ⇒稲盛康治さん ⑤親子ピラティス ⇒竹内サチコさん ⑥新聞紙で鉛筆をつくろう ⇒小沢栄一さん ⑦ボードゲームで遊ぼう ⇒なし	
	※ 2 講師謝礼 ⑤親子ピラティス ⇒ 5 千円 ⑥新聞紙で鉛筆をつくろう ⇒ 5 千円	
	※ 3 定員 ④南極を体験してみよう（別起案） ⇒ 2 0 名 ⑤親子ピラティス ⇒ 6 組 × 2 回 ⑥新聞紙で鉛筆をつくろう ⇒ 3 0 名	
	※ 4 ピラティス： 1 1 名 新聞紙鉛筆： 3 0 名 南極： 2 7 名 ボードゲーム： 2 5 名 講義室： 4 5 名	
	成果欄 自己評価 評価基準	
	定員に対する評価	内容に対する評価
	A：定員以上の申し込み B：定員の8割以上 C：定員の半数以上 D：定員の半数以下	a：充実。次につながりそう b：充実。次へのつながりはない c：やや不十分。 d：内容の見直しが必要

平成 29 年 度

資料1-20

事業報告書

報告日

平成30年3月24日

担当者

志村光一

事業名	まちのフィットネス（1月～3月）				
事業計画カテゴリ	3. 社会的要請課題事業				
目標・目的	高齢者が利用の中心となっている公民館を多世代が集まる場とするため、 ①子育て世代（子どもが0歳～小学生）子ども同士、また親同士の交流の場づくり、また公民館に来館するきっかけをつくる。 ②子育て世代に教育的なスポーツプログラムを提供する。				
日時	1月21日（日）13:00～16:00、2月17日（土）10:00～11:30 3月24日（土）10:00～11:30				
場所・会場	1月香川小学校体育館、2月香川小学校校庭、3月香川公民館広場				
講師・指導・協力者	1月：我妻吉信 2月・3月：アステム湘南スポーツソサエティ				
報償額	¥60,000 (詳細裏面)	支払い方法	☒ 口座振込 ☐ 現金(資金前渡)		
対象者	概ね20代～40代	定員数	各回15名	実績人数	1月 28名 2月 17名 3月 11名
材料費	—	材料費用途	— (収支報告裏面)		
概要	1月 スラックラインで体幹トレーニング 2月 上手に走ろう！ランニング教室 3月 上手に走ろう！ランニング教室				
成果	今回開催したスラックライン、ランニング教室が子ども～大人、高齢者まで幅広い参加があった。スラックラインは家族や親子での参加者が半数を超えており、またランニング教室も親子での参加が複数組おり、一定の目的を果たせたといえる。またスポーツの講座は参加者同士のコミュニケーションが生まれやすく、子育て世代、多世代の交流に役立った。				
自己評価					
Ba					
事業に係る課題・反省点	リピーターも複数いるが、継続して参加する人はまだ少数であるため、より継続して参加してもらう仕掛けが日地道である。また、参加者間の交流は図れているが、より進んだサークル化が自主活動には更なる仕掛けが必要である。				

その他	スラックライン 4万円 ランニング教室 1万円×2回	
	成果欄 自己評価 評価基準	
	定員に対する評価	内容に対する評価
	A：定員以上の申し込み B：定員の8割以上 C：定員の半数以上 D：定員の半数以下	a：充実。次につながりそう b：充実。次へのつながりはない c：やや不十分。 d：内容の見直しが必要

平成 29 年 度

資料1-21

事業報告書

報告日

平成30年3月6日

担当者

志村 光一

事業名	たんじゅん農法でオモシロ菜園づくり				
事業計画カテゴリ	6. 公民館ふれあい事業				
目標・目的	農業は多様な世代から関心があるテーマであり、香川公民館で「たんじゅん農法でまるごと農業体験」を実施した際にも幼児や高齢者からの問い合わせもあった。この講座では①農業を通じた多世代のコミュニティづくり②たんじゅん農法を学び菜園をつくる方法を学ぶことにより、家庭でも実践できることを目指す。				
日時	平成30年3月4日（日）11時～15時30分				
場所・会場	香川公民館和室、講師の畑（農業ふれあい館付近、赤羽根1947付近）				
講師・指導・協力者	長谷亨 氏				
報償額	¥10,000 (詳細裏面)	支払い方法	☒ 口座振込 ☐ 現金(資金前渡)		
対象者	一般	定員数	15名	実績人数	18名
材料費	—	材料費用途	— (収支報告裏面)		
概要	①たんじゅん農法の説明 ②講師の赤羽根の畑での菜園づくりの実践				
成果	5月から6月にかけて実施した「たんじゅん農法でまるごと農業体験」の参加者が9名、ボランティアとして手伝っていただいた。継続したコミュニティができている。高齢者の参加が多かったが、満足度は高かった。アンケートでは9割以上が講座に参加して得るものがあつたと回答しており、一定の成果があつたことがうかがえる。				
自己評価					
事業に係る課題・反省点	子どもとその親からは対象を分けてほしいという声が上がっていた。畑の作業中では個別の質問時間が長く、作業がはかどらないことから、質問はあらかじめ出して後程答えるという方式の方が良い。また、穴を掘る時間が長ったので、作業内容の時間も検討が必要である。				

そ の 他

成果欄 自己評価 評価基準

定員に対する評価

内容に対する評価

A : 定員以上の申し込み

a : 充実。次につながりそう

B : 定員の8割以上

b : 充実。次へのつながりはない

C : 定員の半数以上

c : やや不十分。

D : 定員の半数以下

d : 内容の見直しが必要